

次の文章をよく読んで、6ページから9ページの問いに答えなさい。

私たちのまわりにはいろいろな境があります。境界という言い方もします。こちら側とあちら側とを分ける境です。こちらからあちらに不用意に入り込むと、苦情を言われ、場合によっては争いが起こります。子どもでも大人でも同じです。その事情は領土をめぐる国同士の争いとそれほど変わりありません。境はときにやっかいな問題を引き起こしますが、同時に私たちの社会のあり方を考える上で興味深いヒントを^{あた}与えてくれます。

*

<自然と境>

人びとの暮らしのなかで、山や山の連なりが境の働きをしていることがあります。人びとの生活の^{はんい}範囲を分ける仕切りのような働きをして、そこに境ができます。図1の太い線は、日本列島に降る雨を太平洋側と日本海側とに大きく二分している山の連なりを示しています。同じ山でも、一方の斜面に降る雨は太平洋につながる川に流れ込み、もう一方の斜面に降る雨は日本海にそそぐ川に流れ込みます。こうした山の連なりを^{ぶんすいれい}分水嶺と呼びます。ア. 日本の川の流域も、この分水嶺の線を境として大きく二つに分けることができます。そして、この境が古い時代の「くにざかい」であったり、現在の県境になっていたりすることがあります。図1と6ページの図4を見ると、たとえば東北地方では、県境の大部分がこの境に沿って引かれていることがわかります。しかし、中部地方の(1)や近畿地方の(2)のように、そこを通過している分水嶺の線が、一つの府や県を分断しているところもあります。

平野での暮らしでは、川が境になることもあります。山と同じように、人びとの生活の^{はんい}範囲を川が分け隔てることがあるからです。2ページの図2を見てください。茨城県取手市と千葉県我孫子市の県境付近の地図です。これを見ると確かに利根川が境の役割をしているのがわかります。ただ、興味深いのは、取手市の一部が川の対岸にあることです。洪水を防ぐための河川改修が行われた結果なのですが、イ. この地区は取手市にとどまることになりました。川を境とする場合には、このようなことも起こります。

このように自然のあり方と人びとの暮らしのなかの境は、重なったり、ずれたりしています。それぞれについて観察してみるといろいろなことに気づかされます。

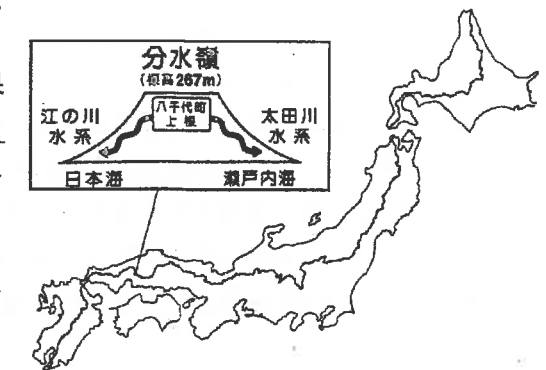


図1

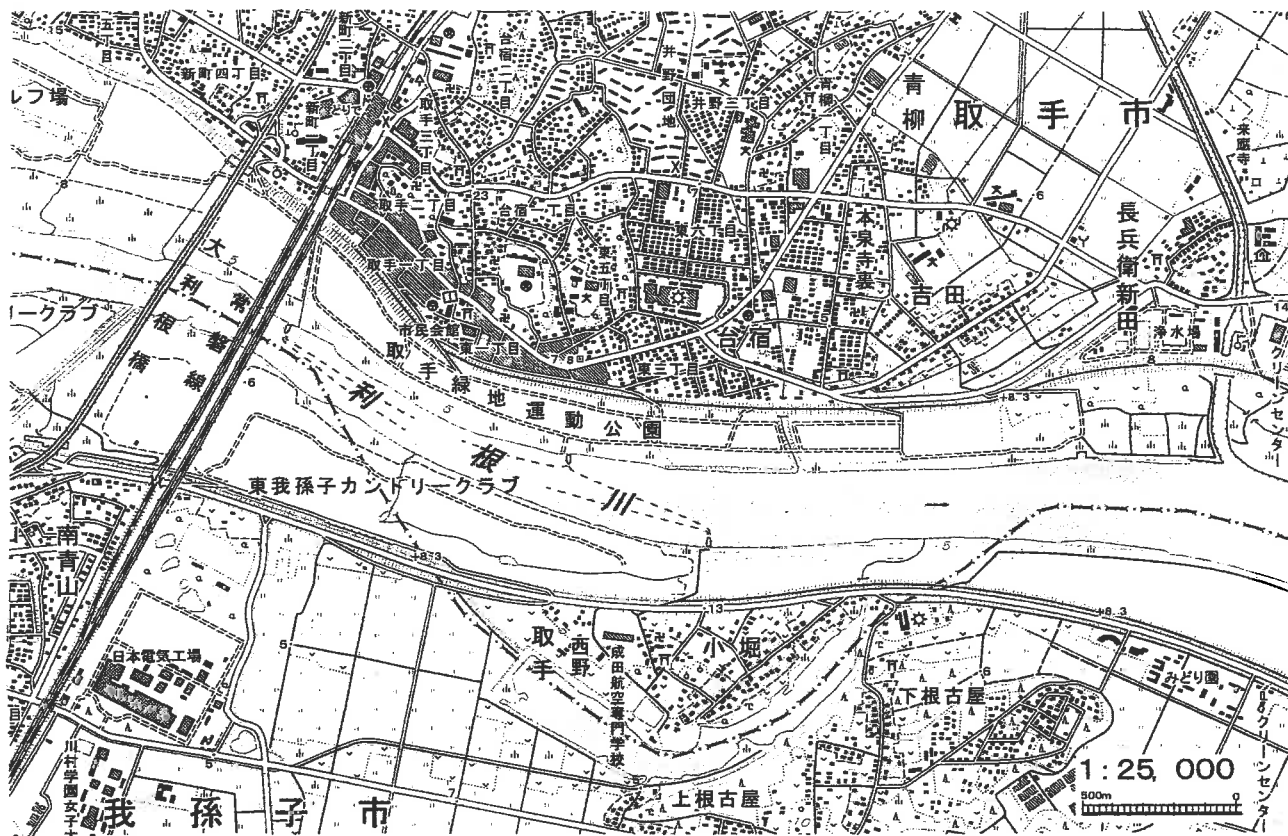


図2

<暮らしから生まれた境>

日本の歴史のなかで人びとが暮らす地域としての村が、今の姿のもとになるような形になったのは、鎌倉時代から室町時代にかけての時期だといわれています。

村ができはじめると、隣り合う村と村の間では、さまざまな問題が起こったことでしょう。村には人びとの暮らしのすべてがありました。人びとにとって村は、単に住む場所というだけでなく、生きるために必要なものをうみだすための場所だったのです。当然、村と村との間の深刻な争いも起こったことでしょう。しかし、いったん境が定まれば、その境があることで無用な争いを避けることもできたはずでした。境の始まりはそう考えることができます。人びとは村のはずれに石を置いて村の境としたといわれています。

ただし、石を置くだけで村ができるわけではありません。資料1を見てください。これは室町時代に現在の滋賀県にあった村の「掟」から三つを抜き出したものです。これを読むと、ウ、一つの村が作られていくためには掟が大変大きな役割を果たしていることがわかります。

資料1

- ・よその村人は、身元を保証する人がいなければ、村に住ませないこと。
- ・村の森で、勝手に木を切った者は、村人ならば村の寄合から外すこと。
- ・無断で寄合を二回欠席した者は、罰金として五十文を支払うこと。

<支配者がつくる境>

村の暮らしからできた境とは違った理由で設けられた境もありました。関所です。とくに戦国時代の大名たちは関所を置くことに熱心でした。それによって旅人の安全が守られた面もありましたが、工、天下統一をめざした織田信長や豊臣秀吉は、そうした関所を廃止したことで有名です。彼らには、関所は邪魔な存在に見えたのでしょうか。ところが、天下統一を実現した江戸幕府は関所を復活させます。そして、幕府はさらに大きな規模で境を設けようとしていました。それが人びとの行き来を厳しく制限した鎖国政策です。

幕府はキリスト教の流入を防ぐことをおもな理由として鎖国政策をとったといわれます。このころすでにヨーロッパの国ぐにがアジアにまでその勢力を伸ばしてきていたのです。一方で、日本から海外に活躍の舞台を求める人びともいました。海を間にはさんで、人と物の行き来は活発だったのです。幕府はその流れを止めて、厳しく取り締まりました。幕府がとくに神経をとがらせたのは、宣教師が国内に入り込み、オ、キリスト教の布教に関係する書物が持ち込まれることに対してでした。

それでは江戸時代、外国との境はどのように設けられていたのでしょうか。まず北に目を向けると、そこにはあきらかな境はなく、蝦夷地と呼ばれる広大な土地が広がっていました。西には、朝鮮半島との間に(3)があります。この島の領主は朝鮮の国王に貢ぎ物を捧げていた時期もあって、朝鮮半島との結びつきがありました。江戸時代、朝鮮通信使の往来の窓口となったのはこの島の大名でした。南に位置する沖縄には、独自の王国がありました。琉球王国です。琉球は、中国や東南アジアの国ぐにとの交易で大変繁栄していましたが、江戸時代、薩摩藩が武力でこの王国を支配するようになりました。幕府も琉球に江戸まで使節を派遣することを要求しています。その際、力、幕府は琉球の使節に日本人とは異なる服装で来ることを求めたといわれています。

このように江戸時代の外国との境は、はっきりとした線を引く形では存在していなかったことがわかります。境の周辺にいた人びとは、支配者が定めた境を行き来しながら暮らしていたことになります。もちろん、幕府はそのことを承知していたのです。線を引くことで国の境を決めようとする考えが強くなるのは、日本が欧米の制度を取り入れるようになった明治時代になってからのことでした。

<境を越える動き>

確かに欧米の制度が取り入れられたことで、国と国との境には、はっきりした線が引かれることになります。国境です。それは今でもさまざまな形で私たちに作用しています。しかし、開国した幕末から明治に時代が移る時期、早くも国境を越える人や物の行き来が始まり、境をめぐる様子が大きな変化が見られるようになります。その例を埼玉県の西部に位置する秩父に見てみましょう。

キ、周囲を山に囲まれた盆地を中心にした秩父の農家は、耕地の狭さをおぎなうため、江戸時代から傾斜のある土地でも可能な養蚕を行い、生糸を生産してきました。周辺から現在の秩父市に集まってきた生糸は、峠を越えて所沢に出て江戸へと運ばれていきまし



図3

た生糸の行き先は横浜でした。峠を越えた生糸は現在の東京都西部に出て、神奈川県かながわの相模原台地を横浜に向かって運ばれました(図3)。その途中には五日市(現在のあきる野市)や青梅、八王子などの町がありました。ケ。明治維新から10年ほどたつと、全国的に自由民権運動が盛んになりますが、秩父に限らず、これらの町でも自由民権を主張する人びとの活動が活発だったといわれています。

秩父では1884(明治17)年に大きな事件が起こっています。銃などで武装した数万人の農民たちが政府の軍隊と衝突する事態にまでなって、自由民権運動のなかでも最大の事件として記憶されています。コ。明治政府はこの事件を少数のならず者やばくち打ち、脱獄者が農民たちをそそのかして起こした事件であると発表しました。そして当時の報道機関も政府の発表に従って報道しました。しかし、事件の背景には、フランスのリヨン市などで生糸価格が暴落し、その影響で農民たちの生活がひどくおびやかされたことがありました。政府は農民たちを救おうとしませんでした。農民たちには切実な要求があったのです。

このようにして、境を越える動きは、すでに幕末から始まっていました。

<境をめぐる現代の動き>

経済が発展し、人も物も自由に行き来する今の時代、社会のなかに境がなくなってきていることを私たちは実感することができます。2014(平成26)年に海外に出かけた日本人は約1690万人で、日本にやって来た外国人は約1340万人です。街で外国人を見かけるの

た。秩父は峠という境を行き来することで外とつながっていたのです。幕末になるとこの峠を通過する生糸の量があきらかに増えてきます。しかも、そのほとんどが新しくつくられた横浜の港に運ばれるようになりました。このため江戸に入る生糸が激減し、困った幕府は対策を立てなければならなかったほどでした。ク。生糸は日本の貿易にとって欠かせない輸出商品になっていたのです。

秩父の生糸のおもな輸出先はフランスでした。当時秩父を訪れたフランスの外交官が、子どもたちがフランス式で算数を学んでいることに感激し、小学校の新校舎建設費を寄付した話が残っています。

さて、すでに述べたとおり、秩父や関東山地の山麓一帯で生産され

はごく普通のことです。私たちが普段使っている物についてはどうでしょうか。日本の製品だと思って手にした品物が、中国など外国製であることはよく経験する話です。日本の企業でも製品の組立を外国で行っていることが多いのです。人や物の行き来だけではありません。人びとの生活や文化にも境がなくなっているように感じるがあります。若者が共通のアニメや音楽やゲームを楽しんでいる様子は、国の内外を問わずどこでも見られるようになっていきます。

このように、今は人びとが境を簡単に越える時代なのです。境があったという自覚さえ、なくなってきていると言ってもよいかもしれません。しかし、本当に境はなくなったのでしょうか。たとえば、外国人とのつながりといった面ではどうでしょうか。外国人を受け入れる政策は国によってさまざまです。日本の場合、観光客を呼び込むことには熱心で、オリンピックの誘致をきっかけにして、政府も「おもてなし」の国であることをアピールしています。しかし、外国から日本に働きに来る人びとの受け入れについては、積極的とはとても言えません。また、自分の国で戦争や迫害にあつて逃れてきた人を難民として受け入れることになると、大変消極的です。近くにそうした外国人が生活していても、隣人として一緒に打ち解けて暮らしているという例はあまり多くないようです。人や物が自由に行き来しているように見える今の世界ですが、私たちの社会は、まだまだ外国人との間に目に見えない境を設けているといえます。

<人の一生のなかの境>

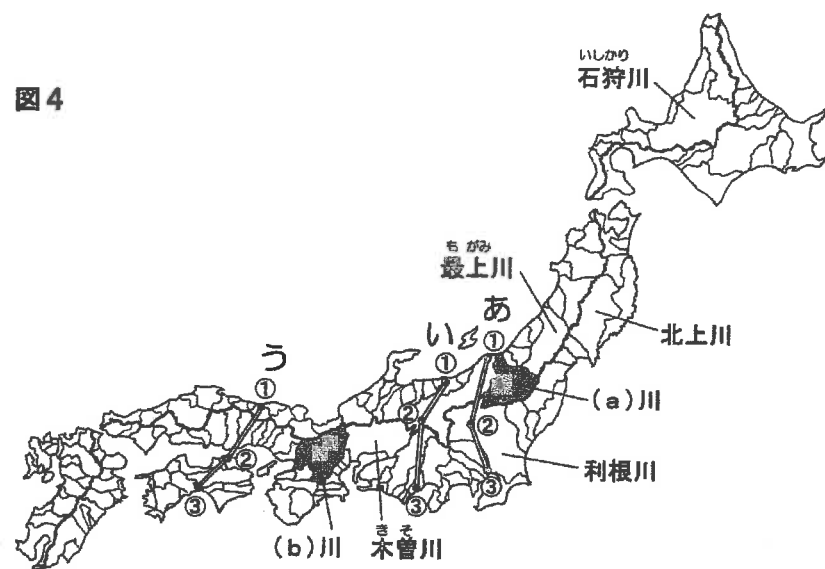
境を設けるということは、ものごとをある一定のグループにまとめることです。ある一つをグループにまとめると、別のグループとの間に境ができるのです。そうした意味での境は人の一生のなかにもあります。昔の15歳は、大人への仲間入りの境となる年齢でした。現在でも法律は中学校を終える前の15歳未満の人を働かせることを禁じています。20歳を過ぎると成人ですが、選挙権については18歳への引き下げが実現することになって、他の権利とのバランスをどう取るかで少し混乱しています。65歳を過ぎると「高齢者」と呼ばれることになりますが、高齢者福祉のしくみとしては75歳を境にしようとする考えも新しく出てきています。どうやら、サ。こうした年齢という境には、それぞれの社会や時代の都合や必要が影響しているといえそうです。そして、人生の終わり、人が死ぬときにも境はあります。「この世」と「あの世」の境です。この境については昔から多くの人が考えをめぐらせてきましたが、少なくとも、この境を自覚することで、人は自分の人生を意味あるものにしようと努力してきたことはまちがいありません。

*

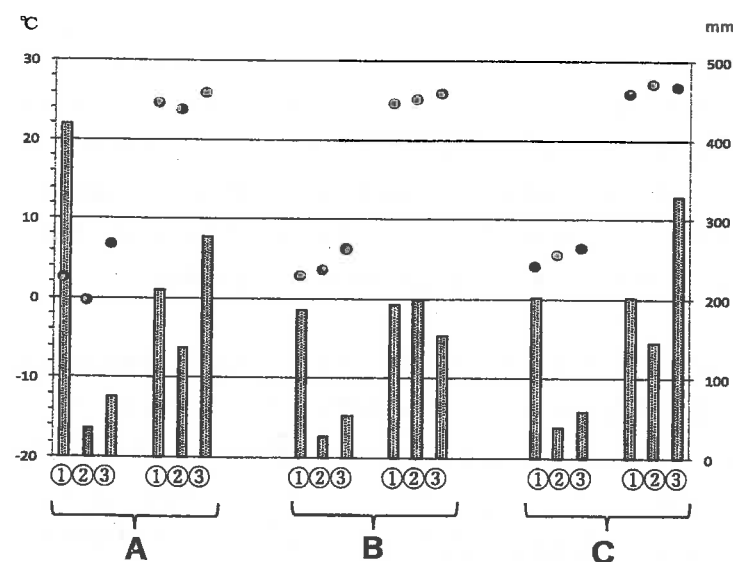
ここまで境について見てきました。分水嶺など自然のなかに観察できる境、あるいは歴史をさかのぼって社会のなかにつくられている境について見てみました。最後のところでは、人の一生や私たちの心のなかにある境についても触れました。シ。私たちの生活の特徴づけているこうした境によって、人は守られてもいますが、場合によっては、境があることで人が困ったり苦しんだりすることもあります。自分のまわりの境を意識してみると、いろいろな問題を発見できることは確かなようです。

問1 文章中の(1)、(2)にあてはまる府県名を、それぞれ二つずつ答えなさい。

問2 下線部アについて、図4は国が管理している河川の流域を地図上に示したものです。
(a)、(b)にあてはまる河川の名前を答えなさい。上流で名前が違ったり、途中に湖があったりすることもあります。海に流れ込む場所での河川名を答えなさい。



問3 下線部アについて。図4の地図上のあ、い、うは、それぞれ①、②、③の三つの都市を線で結んだグループを示しています。下のグラフのA、B、Cは①、②、③の各都市の1月と7月の気温と降水量を順に並べたものです。あ、い、うの各グループにあてはまるものはそれぞれどれですか。A、B、Cより選び、記号で答えなさい。



問4 下線部イについて。利根川で分断されてしまった地区のために、取手市が特別に行っていることがあります。これについて説明した文のうち、あきらかな誤りがあるものはどれですか。図2を参考にしながら、次のあ～えから一つ選び、記号で答えなさい。

あ. 小中学校へ通う子どものため、無料の渡^{わた}し船^{せん}や循環^{じゅんかん}バスを運行している。

い。ゴミを収集するため、国道の橋を渡って収集車を回すルートを作っている。

う。上下水道はライフラインであるため、この地区に直接水道橋をかけている。

え。地区に消防署がないため、さまざまな災害に備えて我孫子市と協定を結んでいる。

問5 下線部ウについて。資料1にあるような掟は、村を成り立たせるうえで、どのような役割を果たしたと考えられますか。当時の村の暮らしを考えて、説明しなさい。

問6 下線部工について。江戸幕府が関所を設けた理由は何ですか。信長と秀吉が関所を廃止した理由と比べながら説明しなさい。

問7 下線部**才**について。キリスト教の布教に関係しない書物は、次第に持ち込むことができるようになりました。このことに関わりのある前野良沢とは、どのような人物ですか。説明しなさい。

問8 文章中の(3)にあてはまる地名を答えなさい。

問9 下線部力について。それはなぜですか。幕府の考えを説明しなさい。

問10 下線部字について、秩父で銅が産出されたことをきっかけにして、お金がつくれ、
平城京へいじょうきょうで使われたといわれています。このお金の名前は何か。答えなさい。

問 11 下線部クについて。下の表は、幕末から明治 30 年代まで（1865～1900 年）の日本の輸出品と輸入品の貿易額を表しています。総計に占める割合を見ても、生糸は輸出品の重要な柱でしたが、そのほかの輸出入品には変化が見られます。この時期に進められた工業化について、この表から重要と思われる品目をいくつかあげて、説明しなさい。

表 1865～1900年の主要輸出入品貿易額(単位:1,000円)

年	生糸	(対総計比)	綿糸	綿織物	絹織物	茶	水産物	総計
1865	9,054	80%	-	-	-	1,180	58	11,280
1870	4,279	29%	-	4	1	4,512	979	14,534
1875	5,425	29%	-	10	7	6,863	1,014	18,611
1880	8,607	30%	-	33	38	7,498	2,015	28,395
1885	13,034	35%	-	178	58	6,854	2,579	37,147
1890	13,859	24%	2	174	1,181	6,327	3,307	56,604
1895	47,866	35%	1,034	2,316	10,061	8,879	3,028	136,112
1900	44,657	22%	20,589	5,724	18,604	9,036	4,086	204,430

年	綿花	綿糸	綿織物	毛織物	鉄鋼製品	機械製品	砂糖	総計
1865	1	534	2,628	4,088	651	321	127	8,587
1870	628	4,522	2,982	2,696	264	193	3,048	33,742
1875	371	4,058	5,046	5,777	946	2,185	3,425	29,976
1880	171	7,700	5,523	5,792	1,689	1,809	3,536	36,627
1885	809	5,190	2,884	2,685	1,050	1,929	4,671	29,357
1890	5,365	9,928	4,129	6,726	2,215	7,267	8,410	81,729
1895	24,822	7,083	6,894	9,104	6,015	14,436	11,747	129,261
1900	59,472	7,043	18,438	17,757	21,743	17,779	26,607	287,262

(杉山伸也『日本経済史』2012年)

問 12 下線部ケについて。資料 2 は、秩父と横浜を結ぶ街道からほど近い、五日市にある農家の蔵から見つかった文書の一部で、1880（明治 13）年に、新しい憲法の草案として書かれたものです。この文書を書いたのは、千葉卓三郎という仙台藩の下級武士だった人物です。彼は当時、五日市で教師をしていました。

資料 2

第 76 条 すべての日本国民には、日本全国で同じ法律が適用され、同じように保護を受けることができる。特定の地方出身者や個人、家柄、一族に特権を与えることはない。

- ① この条文を書いたとき、千葉卓三郎は当時の政治のあり方についてどのようなことを考えていたのでしょうか。彼の経歴に注目して、説明しなさい。
- ② 当時の五日市で、自由民権運動が盛んだったのはなぜですか。説明しなさい。

問 13 下線部コについて。政府はどのような考えでこのような発表をしたのですか。説明しなさい。

問 14 下線部サとシについて。社会の都合や必要から境が設けられることで、人びとが混乱し、ときには困ったり、苦しんだりする例は、年齢のほかにもあります。そうした例の一つあげ、どのように人びとが混乱したり、あるいは困ったり、苦しんだりするのかを、80 字以上 100 字以内で説明しなさい。ただし句読点も 1 字分とします。

問 15 本文からもわかるとおり、境は異なるもの同士が接する場所です。その境をめぐっては、こちら側からあちら側に越えたり、あるいはあちら側のものをこちら側にむかえ入れたりすることが行われます。このことが混乱を引き起こすこともあります。が、むしろ活力になって、社会に良い影響をあたえることもあります。

社会のなかで、異なるもの同士が接し交わることが、活力を生むことにつながるのとはなぜですか。具体的な例をあげながら、80 字以上 100 字以内で君の考えを述べなさい。ただし句読点も 1 字分とします。

〈問題はここで終わりです〉

(2016 年度)

受験番号	
氏 名	

社会解答用紙 (その1)

問1	(1)		(2)	
問2	(a)	川	(b)	川
問3	あ		い	
問4				
問5				
問6				
問7				
問8				
問9				
問10				
問11				

(整理番号)

小 計	
-----	--

